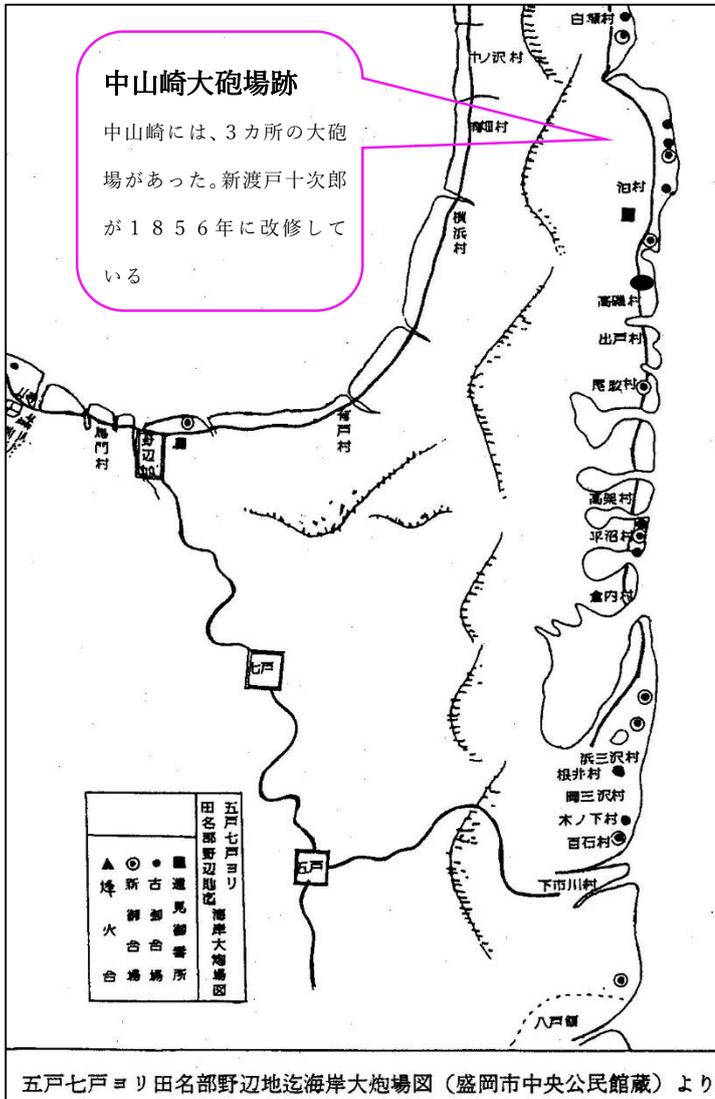


# ふるさとと歴史散歩「泊編」

9:30 泊漁業協同組合駐車場集合 9:45 中山崎大砲場跡見学 11:00 フノリ採り 12:30 現地解散



## 1 江戸時代の海岸防備：遠見番所と砲台跡



江戸時代初期から北浜街道泊村には、外国船の見張りにあたる浦番所が1カ所、御台場が1845（弘化2）～48（嘉永元）年に築造、1856（安政3）年には新旧合わせて9カ所に置かれていた。

- (1)1644（寛永21）年4月26日以降、盛岡藩は20カ所の浦番改めを行い、同心を派遣している。北浜街道には、5カ所。八戸物見崎、六戸浜根井、東浦のうち泊、田名部のうち尻屋、同所尻労の5カ所に浦番所が置かれていた。
- (2)1699（元禄12）年「郷村古実見聞記」泊ノ崎と中山崎の2カ所。泊村上町六助に御普請申付候。
- (3)1804（文化元）年、南部領全体で10カ所に減り、北浜街道では泊と志利屋の2カ所に減少。
- (4)1808（文化5）年、正月、領内海岸警備の員数を幕府に届けた。七戸浦192人近村の獵夫に鉄砲を交付。非常の場合警備隊に参加させることとした。
- (5)1849年（嘉永2）年、七戸代官所の職制に、泊村遠見御番人として3人の御給人が指名されている。
- (6)1853（嘉永6）年ペリー黒船艦隊来航。
- (7)1856（安政3）年4月、公儀の達に基づき、南部藩主利剛が領内を、漆戸茂樹を共に連れ巡視し、泊、尾駈、平沼で台場を検分（遠浅を批判）。泊の台場では射撃を試み、田名部大間沖では砲艦の演習を行わせ、6月1日に盛岡に帰っている。

(六ヶ所村史上巻Ⅱ 第18章より)

注1) 南部 利剛（としひさ：1826年～1896年）は、陸奥国盛岡藩の第15代藩主。第13代藩主・南部利済（としただ）の三男。利済のころに築いた華美な新御殿や津志田の遊郭を廃止。自身の1年間の費用を210両とし、平素は木綿を用い、油を節約するために夜食後は燭台を行灯に換えたと言われている。また北方警備の強化にも努め、守備隊を派遣するなど国事に尽くし、中將に任ぜられた。藩の教育振興にも力を注ぐ。1865（慶応元）年、藩校明義堂を拡張して作人館と改称、文学・武芸・医学3科の教育体制を整備。洋学校日新堂の開設を援助。原敬など明治以降に活躍した優秀な人材が多数輩出された。しかし、藩政再建に関して家老の檀山佐渡と、同じく家老で極端な改革を進める東政図（まさみち：中務）が対立するなど、藩政は迷走。1868年（慶応4年）に盛岡藩が戊辰戦争に敗れ、利剛は謹慎を命ぜられて東京へ護送される。そして同年12月に藩主の座を退き、嫡子利恭（としゆき）に家督を譲った。温厚で情義に厚く、茶道や能楽、和歌などにも精通。歌集『桜園集』を残す。（盛岡市HPより）

